

デیلیー・ジーザス・ニュース #166

イエスは宣言する：「私は扉/門である」

ヨハネ10.7-10

7 そこでイエスは再びこう言われた。「よくよくあなたがたに告げます。わたしは羊の門です。8 わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗です。しかし、羊は彼らの言うことを聞きませんでした。9 わたしは門である。わたしを通して入る者は救われる。彼らは出たり入ったりして、牧草地を見つけます。

10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにだけです。わたしが来たのは、羊が常に永遠の命を得、それを豊かに持つためです。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**は**イエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムの街路
タイムライン	9月(31月)
イエスの生涯の文脈	第六段階: イエスの後期ユダヤ教宣教
	B. 仮庵の祭りにおけるイエスの宣教
	5. 仮庵でのイエスの最後の教え: 「私は門であり、良い羊飼いです」
タイトル	ii. イエスは宣言する: 「私は扉/門である」

コメント:

今日の朗読の中で、イエスは3番目の「わたしはある」という発言をしました。「**わたしは門、あるいは扉である**」(10.7)。

多くの人は「扉」という翻訳に慣れており、この言葉をイエスの6番目の「わたしはある」という発言と関連付けています。「**わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通してでなければ、誰も父のもとに行くことはできない。**」ヨハネ14章6節

「門/扉」のイメージは上記の「道」のイメージと似ていますが、羊飼い/羊のモチーフ、そして仮庵の祭りと特に関連しています。

デイリー・ジーザス・ニュース #166

寒い冬の間、羊飼いは羊を壁で囲まれた建物の中で一晩中飼育していました。壁は羊を暖かく保ち、捕食者や動物から守ってくれました。羊飼いは夜の間、門、あるいは扉の前に横たわり、生きた守り手として羊を守りました。「門」とは、実際には羊飼いであり門番でもある人物自身でした。

壁に囲まれた小屋と門番が夜に羊を守った一方で、羊の群れは昼間、餌、水、そして光を必要としていました。こうして門 / 扉は、羊飼いが羊たちを野原へ連れ出す際に、羊の群れに必要な物資を供給するための入り口となりました。イエスが言われたように、**「羊たちは入って来て、出て行って、牧草地を見つけるだろう。」**

イエスはご自身を門 / 扉と呼ぶことで、利己的な盗人やよそ者とは対照的に、ご自身がご自分の群れ、そして一匹一匹の子羊に完全な保護と備えを与えることを示しておられました。こうして、ヨハネ10章10節には、ご自身の宣教の目的を最もよく表す言葉の一つが記されています。

「盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにだけです。わたしが来たのは、羊が常に永遠の命を得、それを豊かに持つためです。」

私たちは必要なものすべてにおいて豊かさの喜びを得ています。なぜなら、イエスは私たちの門であり、私たちは彼の大切な羊だからです。別の羊飼いが書いたように、**「主は私の羊飼い。私は何一つ欠けることがない」**（詩篇23章1節）。

イエスのこの言葉は、仮庵祭とイエスの受肉を力強く結びつけています。ぜひお聞きください。

ヨハネが福音書の中で初めて受肉について述べた際、彼はイエスが**「私たちの間に幕屋を張られた」、あるいは「私たちの間に住まわれた」**とヨハネ1章14節で述べています。ヨハネは、イエスが荒野の幕屋において、夜は光、昼は雲としてその存在を示されたヤハウェであると言っていたのです。

、荒野、そして仮庵における神の臨在と恵みの象徴でした。

この祭りは、イエスが人身のヤハウェであり、彼らの間に幕屋を張ったことを宣言するのに最適な場でした。忠実な門番として、自らの命をかけて民を守り、彼らを導き出して養うイエスは、力強いイメージでありながら、あまり評価されていないのです。

応用：

「わたしは門である」とは、イエスが私たちの忠実な守り手であり、供給者であることを意味しています。イエスは私たちを、愛、喜び、平和、光、命、言葉、そして存在で満たしてくださいます。

今日、イエスを信頼するために、具体的にどのような備えが必要ですか？